

神奈川県立麻生支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	神奈川県立麻生支援学校における学校運営協議会		
開催日時	令和5年5月23日(火)		
開催場所	神奈川県立麻生支援学校会議室及びオンラインで繋ぐ各会場		
(役職名) 出席者	(会長) 佐藤委員、(副会長) 岡本委員、久保田委員、小牧委員、谷委員、永石委員、深澤委員、松尾委員、山口委員、山崎委員 <学校職員> (副校長) 山岸、(教頭) 森本、原島、(事務長) 田村、(総括教諭) 松岡、寺山、杉本、宮澤、藤原、栗澤、小川、鈴木		
次回開催予定日	令和5年10月31日(火) 予定		
問合せ先	所属名：麻生支援学校、担当者名：森本 智子 電話番号：044-980-4855 ファックス番号：044-986-2517		
下欄に掲載するもの	・ 議事録	議事概要とした理由	
会議経過	1 開会 2 挨拶 (麻生支援学校 山崎校長) 3 委員自己紹介 名簿順に紹介しご挨拶いただいた。 4 学校職員自己紹介 名簿順に挨拶した。 5 会長及び副会長の選任 会長を佐藤委員、副会長を岡本委員とすることとなった。 6 <学校評価部会> (1) 説明 山岸副校長より資料に沿って説明を行った。 資料3「グランドデザイン」 2020年から2024年までの4年間として設定。インクルーシブな社会の実現を目指すために、小学部から高等部までの児童生徒が学ぶ学校として、キャリア教育の視点をもって教育活動を行う。 資料4「学校教育計画」 グランドデザインについて文章で表記したもの。裏面は4年間の目標と主な方策。 資料5「教育課程編成表」「日課表」 それぞれの部門や学部の子童生徒の実態に合わせて学習指導要領を基に作成。 資料6「学校運営組織」 本校は比較的大きい学校。各学部の教育活動を4つのグループが支える組織。 資料7「令和4年度学校評価報告書実施結果」 視点1～5において、達成できたこともある一方、次年度への課題も見えてきた。令和5年度の目標設定へとつながっている。 資料8「令和5年度の学校目標」 今年度の目標のうち、視点1から4に取り組むにあたっては、地域との連携を大切にしながら社会とかかわる力を育てていきたいと考えており、その具体的な内容について<切れ目ない支援部会>のところで総括教諭から説明させていただく。 資料9「麻生支援学校不祥事ゼロプログラム」 令和4年度に作成した「児童・生徒への丁寧なかかわりのスタンダード」の実践について、職員会議等で好事例を共有して、よりよい支援、指導を目指す。 (2) 質疑応答 ・ 資料2020～2024とあるのは2024年3月31日までということ。 ・ 管理職が勝手にやっている…ではない。各場面で権限移譲されている。「丁寧		

なかかわりのスタンダード」作成にあたって、小さなグループ協議があったはず。不祥事防止も含めて、自分事として考える経営をとられている。素晴らしい。

(3) 学校運営に関する基本的方針について承認された。

7 <切れ目ない支援部会>

(1) 説明 資料10「つながるあさおプロジェクト」について総括教諭より説明を行った。学校として進めたいことや協力していただきたいことに視点をあて、ご意見ご感想などをいただいた。

(2) 意見交換

「つなぐ」をキーワードとして 活発な協議をお願いしたい。ご意見をいただきたい。

(3) 意見交換 (○委員、●学校関係者)

○社会に向けての募集や協力を求めること、教員の働き方改革等、壁に当たると思われるが、地域にどう出ていくか。麻生は初代から社会につながることを教育の大部分に据えていた。新しいメンバーが入れ替わっても、地域とは切れ目なく行ってきた。声を出して募集を呼び掛けてくれると、具体的にイメージしやすい。「声をかけてもらいたいな」の吹き出し、実現できるとしたら、作業をしている子どもたちに声をかけていくことから取り組みたい。「こんにちは」が誘い水になる。外に行ったら「あ」でもいいから発信できる子に育ててほしい。参画できる具体的なツール、ホームページでの紹介など。

●多摩市に恵泉学園 園芸課へ校外学習に。学生さんが来校して作業してくれた。地域の資源。大学がたくさんあるので、活用したいwin-winの関係づくり。田園調布学園大学 新井先生に 大学の一角に展示をさせてほしいと依頼している。王禅寺会館コロナ禍でも続けてもらっていた。県庁知事部局の展示スペース県教委を通じて手を挙げた、昨年10月からずっと作品を展示している。どんどん広げたい。コロナが緩んできた。学生さんのボランティアを受け入れる場を提供していきたい。4月の教授会で話題を出していただき、OKをいただけそう。ほかの川崎市内の特別支援学校にも広がっていきそう。学生とのつながり久保田委員、佐藤委員にもご協力いただけないか。

○自分のゼミは特別支援。みどり祭にて大学として受け入れる、となると壁が高いが学生がやる、ということでは十分可能。昨年度は「みんなちがってみんないい」の動画制作に取り組み、カナチャンTVで取り上げられた。前向きに。早速ゼミ生に連絡を流したい。

○ボランティアの受け入れ、新井先生のサポートができたと思う。

●子どもたちが地域で活動するという視点ではいかがか。

○こども文化センターの清掃を分教室にお願いできないか。手が届かない場面がある。縁日やハロウィンでの販売もできないか。カリタスでの音楽祭。いろいろな場面で音楽集会 三味線、バイオリン、アートグループ 具体的な話は誰にしたらよい？

●分教室は近いので、連携支援グループリーダーを窓口。

○「災害に備える」P4について、町会では9月、10月に防災訓練を行う予定2つの町会で始めた。6町会でスムーズな運営。テントの組み立て、知らない人へのレクチャー、炊き出し訓練も行っている。教職員の方にも参加をしていただけるとよい。P7については広報部長をとおして、募集記事を載せることもできる。町内会館でのコンサート引き続き行ってほしい。

○「災害に備える」防災に関する知識 相談に乗りたい。県庁からの情報も得られるはず。

○こうしたらいいということ 感想として、インクルーシブな世の中、息苦しさを感じている。ディズニーランドはすごい、娘を外に連れていく場所、そこしかないというイメージ。心地よい。車いす使用していても。嫌な視線を一度も感じることはない。特別な感じを出されない接し方。学校・放課後デイはよいが、週末の買い物、非常にハードルが高い。ハード面も心理面もどうしていったらよいのか、日々感じている。

●インクルーシブということでは学校としても抱えている。参考に進めていければ。本校児童生徒とのなかかわりが多いお立場からご意見をいただきたい。

○通学支援 医療的ケア時のバスについて支援法ができて、“ここから先は母”

とされていたところが法律ができたことで考えが変わった。他校で通学支援のサポートを始めている。看護師の派遣、車両の提供 週に1回しかできていない。事前に学校から発信して。関係機関 訪問看護に早めに伝えてほしい。ほかの方の情報 個人情報との絡みもあるが、支援してきてどうだったのかのフィードバックをまとめ、教えてほしい。難しいかもしれないが、発信して知ってもらう機会に。卒業生8名 医療的ケアの受け入れ 幅狭い。ケアが増えることで行く場所がなくなる。地域は学校より壁が高い。学校の取り組みを発信してもらいたい。北部の医療的ケア連絡協議会に麻生も参加してもらっている。あの場合だけではなくネットワークを広げたい。

●発信の仕方、考えたい。

○インクルーシブな社会になかなか…というご意見。プールの引率のボランティア経験。いき過ぎない支援 田園調布学園大学での講座 麻生区福祉課長さんの参加 大学生の経験 ボランティア募集 若者もベテランも地域に開かれた研修会もおもしろそう。新たな道に進まれる 校名が変わったタイミングで進んで行ってほしい。体験的な研修とは具体的にどのようなものか。

○GL4名で具体にしていこう。この地域の方を講師として、教員、地域の方に還元できるようにしていきたい。今後お伝えする。

8 会長の言葉

協議ありがとうございました。具体的なお願いで論点が明確だったのが良かった。本格展開しなければいけない時期。最初のご意見の「出かけたときにあいさつ」一言目にその言葉があったのはすばらしい。新しいことを始めるのは働き方改革に逆行する。教員は子どものためならやってしまう。何かを行う場合は地域主導で。のっかっていくやり方で。学校からは言いづらいことを協議していくことが、この会を持つ意義。

9 校長の言葉

お忙しい中活発なご意見ありがとうございました。第2回を待たずに、王禅寺町内会での木工教室が行われる。学校がこう考え、こんなことをしてほしいという説明をしていく中で、一つひとつ整理をしていただけた。ぜひ第2回には進捗状況もそうだが、取り組み始めているという報告もできると良い。広げていきたい。今後ともよろしく申し上げます。

10 閉会

以上